



つばめ農園おひさま便り

42

安溪貴子・安溪遊地

営農ソーラーの売電がよくストツプ

中国山地の山々が若やいで、緑色に染まってきました。つばめ農園では、田んぼの作業が始まっています。今年は少し早く始めてみようというお師匠さんの提案で、一日早い作業です。四月三日にイセヒカリの種籾の温湯殺菌、催芽を開始し、一六日に播種。四月の寒さを乗り越えて五月一二日に不織布のカバーを外すと、よくそろった姿をみせてくれました。田植えは五月末の予定です。

営農ソーラーでもっとも売電収入が高いのは、涼しくて天気の良い五月と一〇月です。ところが、このところほとんど毎日のように「明日は買い取りしません」という出力抑制の予告が電力会社から届くようになってきました。「火力発電設備の出力抑制や揚水発電所の運転、連系線の活用等の対策を実施しても」電気が余るといのです。これに出力制御の難しい原発が加わればもっと余る時間帯が増えます。

なぜ岸田政権は原発の建て替えや六〇年超運転を認めて、原発回帰するの？ GX推進法のGXって「ゲンパツ・X」の略じゃないかったの？ などと聞かれるが増えてきました。京都大学で原発の危険性を

訴え続けた「熊取六人組」のひとりの今中哲二さんが#高木仁三郎自然科学基金のインタビューで話しておられます。ひとつには、金であると。関西電力で言えば、資産のうち原発の設備と核燃料がそれぞれ五〇〇億円で、もし原発の再稼働が不可能と決まれば資産一兆円まるごとマイナスになって、現行の法制度のもとでは会社が潰れる。だから、政府が新增設・革新炉・次世代炉・核融合などというのは目くらましで、本命は再稼働にあるということです。もうひとつは、いつでも核武装できる技術力を保っておくという佐藤栄作内閣以来の「核オプション」も疑わしい。以下は、一九六九年の外務省の「#わが国の外交政策大綱」からの引用です。

「当面核兵器は保有しない政策をとるが、核兵器製造の経済的・技術的ポテンシャルは常に保持するとともにこれに対する掣肘を受けないように配慮する」

なあんだ、それなら新增設はやっぱり無理だね、と思ったらそれは甘いのです。中国電力の上関原子力発電所の建設予定地とされる上関町長島では、福島での原発震災以来、関連工事がストップしているにも関わらず、県道を町道に格下げしたうえ、電力会社が全額負担して予定地に向かう道路の拡幅工事が行われ、二〇一八年には一三

上：全長 396 m の長島トンネル。毎年の修繕に平均 250 万円かかる。
下：マルゴトの漁師飯。今日の主役は 4 キロ余りのマダイ。



億円ものお金をかけた長島トンネルが作られています。これは「匿名中電寄付金」とマスコミに書かれたような自治体への直接の寄付が原発震災以後は難しくなったことも関連するようです。一九八二年の計画発表以来、原発マネーに頼り切ってきた地域の土建業を干上からせないための飴です。もしも原発そのものができないなら、なにかその関連施設（例えば核のゴミの受け入れ）で補助金がもらえないか、次はそんなことを言い出すのではないかと危惧しています。

上関原発の「予定地」を見に行く

四月と五月に「#上関の自然を守る会」の誘いで、現地を歩いてきました。「奇跡

の海」と生物研究者が折り紙を付ける、上関の海の生き物たちと、それを支えている森と人の暮らしを守ることをめざす会の主催する、エコツアーの講師です。四月は「山桜を楽しむツアー」という名前で、船から花見というものでした。まぶしく光る瀬戸内の岸辺を車で走って、つばめ農園からは二時間半ほど到着します。

一九九九年、上関原発がわが国初の環境アセスメント新法の対象となった時、貴子は県の委員としてその審査に関わりました。ところがその「準備書」は、ほとんど島根原発の書類のコピーで、希少生物のナメリやナメクジウオなどの記述もないずさんなものでした。審査の結果、科学的な調査をといる県知事意見になりました。希少生物の宝庫である「奇跡の海」を巡って、

その後、日本生態学会を中心に保全のための研究がなされ、市民団体も同時にできました。それが「上関の自然を守る会」です。遊地は、学会の要望書アフターケア委員長の役割を引き受けました。そんなご縁で私たちは「守る会」と研究者をつなぐ立場にあります。

原発推進・反対で分断された人間関係を修復し、美しい、豊かで生物多様性の高い「奇跡の海」を次の世代に手渡したいという思いから、「守る会」代表の高島美登里さんらは、民家を改装して「マルゴト・上関まるごと博物館」という交流・宿泊施設をオープンさせました。ここが、セミナーや小さいお子さんも参加するツアーの拠点です。

四月は里山の風景の中の多彩なヤマザクラを愛で、五月は海鳥の専門家を迎えて、ハヤブサとミサゴの営巣、クロサギなどを間近に見ることができました。護岸がない自然海岸が多く、夏にはアカテガニの産卵、クサフグの産卵も見られます。ツアー後の漁師飯の豪華さと美味しさは、字では書きあらわせません。（つづく）

（あんけいたかこ・あんけいゆうじ）

✉ a@ankei.jp

📄 http://ankei.jp

QRコードにスマホをかざすと、各サイトが見られます。文中の#マークはブログ内検索用です。

